



バッハの森通信

第143号
2019年
4月20日発行

一般財団法人バッハの森

〒300-2635 茨城県つくば市東光台2-7-9 <http://www.bach.or.jp>

☎ 029-847-8696 / Fax 029-847-8699 e-mail : info@bach.or.jp

郵便振替 00380-4-16119 一般財団法人バッハの森

生きる喜びを 楽しむ音楽を求めて

バブルではなかった目的と仲間

5月1日から新元号「令和」になるというので、日本中がお祭り騒ぎをしています。他方、もうすぐ終わる平成の30年がどのような時代だったか、皆さん、語り合っています。ではバッハの森はどうだったのでしょうか。振り返ってみました。

* * *

バッハの森は、平成が始まる4年前、1985年に創立されました。ヨーハン・ゼバスチャン・バッハ生誕300年の年です。私たちにとって重要な年ですが、この年に活動を開始したのは全く偶然でした。

その頃、日本はバブル景気で沸き立っていました。これまた偶然です。故・石田一子が寄贈した、彼女の両親から相続した東京・大塚の土地と家屋が約2億円で売却できたのは、バブルで東京の不動産が高騰していたお陰でした。同時に、バッハの森創立を目的に一般の方々に募金を呼びかけたところ、6ヶ月で250人の方々から600万円もの大金のご寄付が集まりました。勿論、この方たちは、「言葉と音楽が融合したバロック時代の宗教音楽を学び、生きる喜びと感動を楽しもう」というバッハの森創立の目的に賛同してくださったわけですが、バブルの社会的雰囲気の後押ししてくれたことも事実です。

この資金で、奏楽堂、聖書の国資料館、セミナーホール、ゲストハウス（現在は貸家）、管理棟などと内庭を持つ6棟を数年がかりで建て、パイプオルガンをユルゲン・アーレント氏に建造してもらいました。実は、現在、これらの建造物の維持修理に苦労しています。ですからときに半分位にしてあげればよかった、と考えることがないわけではありません。しかし、そうはいかない事情があったのです。

バッハの森の建設費は、寄贈された不動産の売却によって得た資金でした。ところが、建設後まもなく大蔵省から調査に来た担当官から、この資金を全額、バッハの森の活動目的のための不動産にしない限り、不動産売却の際に受けた免税措置は取り消されると知らされました。そこで、基金として積み立ててあった5千万円を取り崩して第二次建設をしたのです。しかし、第二次建設をしてバッハの森を現在の形に完成したのは、単に税金対策のためではありません。当時は人が大勢集まっていたのです。

* * *

1985年1月創設のバッハの森は9月までに240人の会員を集め、その後も増え続けた会員は1993年には388人になりました。これがピークで以後減少に転じ、現在は125人です。このような会員数の増減は、バブルで始まった平成時代が、バブルがはじけると長いデフレに陥った状況を、一見、そのまま反映しているように見えます。

しかし、調べてみるとバッハの森の活動プログラムは、34年間、全く変わっていません。ただ一つ目立つ変化は、最初の頃、いわゆるプロの音楽家たちを招待して盛んに開いたコンサートをしなくなったことです。莫大な赤字が出ただけではありません。彼らに、バッハの森が目指す理念に賛同して仲間になって欲しいという願いが、間違っていたことに気づいたからです。

この34年間に、バッハの森の存続が危ぶまれる事件が二つありました。一つは2008年に、創立者でリーダーだったオルガニストの一子が亡くなったこと、もう一つは2011年の大震災でアーレント・オルガンが大破したことです。しかし、この両事件をピーク時の三分の一になった会員たちが自力で克服して現在があります。バッハの森はバブル時代に始まりましたが、その目的もそれに賛同して集まった仲間たちも、決してバブル（あわ）ではなかったのです。私たちの現在の課題は、バブル時代に作り上げた素晴らしい遺産を、このデフレ時代にどうやって活用するかという意欲と智恵を働かすことです。皆様のご参加をお待ちしております。（石田友雄）

受難と復活

命の連鎖の不思議

*このメディタツィオは、3月24日にバツハの森で開かれた「創立記念コンサート：開眼の願い」で朗読されました。

早春、木々の花芽が色づき、自然界が新しい命の誕生を準備し始めた頃、イエスと12人の弟子たちは、ガリラヤ地方から100数10キロ、ヨルダン峡谷を南下して、オアシスの町、エリコの近くを旅していました。ユダヤ人の習慣に従って、春分後の満月の晩に始まる過越祭を祝うため、エルサレムに向かっていたのです。エルサレムには、ここからさらに約40キロ山道を登らなければなりません。

見えない受難と復活の意味

そのときイエスは12人の弟子たちを呼び寄せ、これからエルサレムに上って行くが、そこで彼は逮捕され、侮辱され、遂に殺される。しかし3日目に復活する、と彼の受難と復活を予告しました。ところが、このとき弟子たちには、イエスが予告する受難と復活が何のことなのか、全く分かりませんでした。

彼らがさらに歩き続けていると、道ばたで物乞いをして一人の盲人が「ダビデの御子、イエス様、私を憐れんでください」と大声で叫び始めました。ナザレのイエス様のお通りだ、と人々が彼に教えてくれたのです。人々が黙らせようとした制止を振り切って盲人は叫び続けました。「ダビデの御子、イエス様、私を憐れんでください」。彼の叫び声を聞いたイエスに命じられ、連れてこられた盲人にイエスが尋ねました。「私に何をして欲しいのか?」。盲人は答えました。「もう一度見えるようになりたいのです」。そこでイエスが彼に向かって「見えるようになれ。お前の信仰がお前を助けた」と言うと、彼は眼が見えるようになり、神を讃美してイエスに従った、と物語は伝えます。

これは、復活祭の7週前の日曜日、40日の受難節が始まる週の福音書（ルカによる福音書18章31～43節）が伝える物語です。バツハは、この物語の前

半と後半を2曲のカンタータとして作曲しましたが、本日は、見えるようになることを願って、イエスに向かい必死に叫んだ盲人のエピソードに基づくカンタータ（BWV 23）を演奏します。これから歌詞に沿って、カンタータが語ることを解説いたします。

神であり人であるイエス

第1曲

あなた、真(マコト)の神にしてダビデの御子よ、あなたは永遠より、遠くにあつてすでに私の心の悩みと身体(カラダ)の痛みをこと細かに顧みていてくださった方です。私を憐れんでください。

あなたの不思議な御手、誠に多くの悪しきものを退けたもうた御手により、同様に私に助けと慰めが実現しますように。

第1曲は、本来、ソプラノとアルトの二重唱ですが、本日は朗読します。語り手はあの盲人です。当然、彼が一人で語っていますが、その言葉をバツハは二重唱にしました。「あなた、真(マコト)の神にしてダビデの御子よ」という呼びかけが、神であるイエスと人であるイエスに、それぞれ呼びかけていることを表すためです。

イエスの時代から約1000年前に、イスラエル民族に初めて政治的安定をもたらしたダビデに、永遠に続く王朝を神が約束したという信仰が生まれました。しかし、その400年後にユダ王国はバビロニア帝国に滅ぼされてダビデ王朝は断絶しました。ところが、バビロン捕囚を経て、ダビデ王国永続の信仰は、世の終わりにダビデの子孫からメシアが現れ、ダビデ王朝を再興するという信仰になりました。実際、バビロン捕囚からエルサレムに戻ったユダヤ人は、イエスの時代まで500年間、メシアを待望して生きてきました。イエスをメシアと認めたので盲人は「ダビデの御子、イエス様」叫んだのです。

ダビデの子孫は、当然、人間です。しかし、最初のキリスト教徒は、十字架によって処刑されて死んで葬られた人間イエスは、復活して神の御子であることを証明したと信じました。ですから、「あなた、真(マコト)の神にしてダビデの御子よ」という呼びかけは、イエスが12弟子に予告した彼の受難と復活を示唆しているのです。カノンの形式で、それぞれダビデの御子と神の御子に呼びかける二重唱は、最後に「私を憐れんでください」という願いと「憐れみの実現を願う助けと慰め」を語る中間部の終結に

なると、ソプラノとアルトは完全に重なり、神であり人であるイエスが、唯一人の存在であることを示します。

祝福を勝ち取る願い

第2曲

ああ、過ぎ行かないでください。ああ、過ぎ行かないでください。すべての人の救いであるあなたは、健康な者ではなく病いある者に仕えるために、この世に来られました。ですから、私もまた、あなたの何でも出来る御力にあずかせてください。人が私を置いた道端で、私はあなたを見つめています、盲人ですが。私は決心しました。あなたから祝福を受けなければ、私はあなたを去らせません。

[キリストよ、あなた、神の小羊よ、
あなたは世の諸々の罪を負う方、
私たちを憐れんでください。]

このレチタティーヴォも、語り手はあの盲人です。(本日は朗読する) テノールの朗唱にかぶせてオーボエとヴァイオリン(本日はオルガン)がコーラル「キリストよ、あなた、神の小羊よ」の旋律を演奏します。それによって第1曲の「真(マコト)の神にしてダビデの御子」が「キリスト、神の小羊」であることが暗示されます。

ここで注目すべきは、盲人が最後に「あなたから祝福を受けなければ、私はあなたを去らせません」と訴えた最後の言葉です。これが「ダビデの御子、イエス様、私を憐れんでください」と叫び続けた盲人の思いを表していることは明らかです。実際、この言葉にかぶせて、器楽は「私たちを憐れんでください」という箇所を演奏します。

ここで、この同じ言葉を、一晩中格闘したが勝負がつかないまま立ち去ろうとした見知らぬ男に言った、族長ヤコブの言葉を思い出さなければいけません(創世記32章27節)。そのときその男は「これからお前はイスラエルと名乗れ、神と人々と闘って勝ったのだから」と言ってヤコブを祝福しました。これらの示唆に富む物語と音楽から理解されることは、「私を憐れんでください」という祈願には、祝福を勝ち取るまでは神と格闘を続ける決意が込められていることです。

御意志(ミココ)の理解を願う

第3曲

すべて者の眼は、主よ、
あなた全能の神よ、あなたを待ち望んでいます。

そして私の眼はことさらです。
与えてください、この眼に力と光を。
この眼を捨て置かないでください、
いつまでも暗闇の中に。
これからはあなたの目配せのみが
慕わしい焦点になります、
この眼のすべての働きの。

すべての者の眼は、主よ、
あなた全能の神よ、あなたを待ち望んでいます。

いつの日か、あなたがこの眼を死により
再び閉ざそうとお考えになるまで。

第3曲で、これまで一人で盲目の癒やしを願い求めてきた盲人の苦しみに、初めて共同体が参加して個人の苦しみは共同体全員の苦しみであり、共同体全員が癒やしを求めていると神に訴えます。「すべての者の眼は、主よ、あなた、全能の神よ、あなたを待ち望んでいます」と歌う4声合唱は、その音楽が器楽で4回、合唱で7回繰り返され、ロンド形式の柱となって第3曲を構成しています。この歌詞はその後に「あなたは時に応じて全ての者に食べ物を与えてくださいます」と続く詩篇145篇15節の引用です。ここでは勿論、盲目からの癒やしを待ち望んでいるわけですが、ここで盲目の癒やしは、食物と同様に、人が生きるために絶対に必要なことだということを示唆しています。

その証拠に、合唱の間を縫って、テノールとバスの男声二重唱は、盲人個人の思いを、この眼を暗闇から解放してくだされば、神の目配せだけで御意志(ミココ)が分かるようになりたいと語ります。ここで、この日の福音書の物語前半を思い出してください。イエスが語る受難と復活が何を意味しているのか、弟子たちは理解できませんでした。イエスの御意志(ミココ)が見えなかったのです。目が見えるようになりたいという願いは、御意志(ミココ)を理解する力と光が与えられるように、という願いだったのです。

命の連鎖に生きる

第4曲

キリストよ、あなた、神の小羊よ、
あなたは世の諸々の罪を負う方、
私たちを憐れんでください。

キリストよ、あなた、神の小羊よ、
あなたは世の諸々の罪を負う方、
私たちを憐れんでください。

キリストよ、あなた、神の小羊よ、
あなたは世の諸々の罪を負う方、
私たちにあなたの平和を与えてください。
アーメン

第4曲は、コラール「キリストよ、あなた、神の小羊よ」の4声合唱です。ミサ通常文の最後の式文「アニュス・デイ」のドイツ語訳で、ミサにおいてもこのカンタータにおいても、祈願の終結でありクライマックスです。この旋律はすでに第2曲で器楽によって演奏され、ダビデの御子であるメシア、神であり人であるイエスが、「神の小羊」であることを暗示していました。ここで、この日の福音書の物語の背景として、イエスと弟子たちが過越祭を祝うためエルサレムに向かっていたことを思い出してください。「神の小羊」は、過越祭の起源となったエジプト脱出に際して、犠牲となって死神の侵入を防いだ小羊、また族長アブラハムが神に信仰を試されて独り子イサクを捧げようとしたとき、イサクの代わりに犠牲になった小羊などになぞらえて、初代キリスト教徒が名付けたイエスの呼び名です。「世の諸々の罪を負って」犠牲になり、復活して人々に命を与えたイエスを意味しています。

一つの命の犠牲により、多くの新しい命が活かされる命の連鎖は自然界の摂理です。イエスは「一粒

の麦は地に落ちて死ななければ一粒のままだが、死ねば多くの実を結ぶ」（ヨハネによる福音書12章24節）と教えました。一粒の麦が地に落ちて死ぬ、すなわち「受難」することによって、多くの実を結び「復活」という意味です。しかし、人間は複雑な存在で、このような単純な命の連鎖に参加できないという反論は確かに現実的です。

それにもかかわらず、カンタータの第4曲で盲人の個人的な願いが共同体の祈りになっていることに注目してください。悩みの分かち合いは命の分かち合いなのです。また、このコラールがキリスト、あなたは神の小羊だ、と断って歌い出すことにも注目してください。このカンタータは、イエス・キリストに最も相応しい呼び名は、一般的な「神」でも、支配者のイメージが強い「ダビデの御子」でもなく、彼の受難と復活を一言で表している「神の小羊」だという、初代キリスト教徒の信仰を継承しているのです。そして受難と復活という命の連鎖によって人は生きている、いや生きることができる、と告げ知らせているのではないのでしょうか。このカンタータを学ぶことにより、私たちの命も、命の連鎖の中で生かされている不思議な存在であるところに、ご一緒に感動を覚えることができれば、これほど嬉しいことはございません。（石田友雄）

REPORT／レポート／報告

2019年・バッハの森
創立記念コンサート（3月24日）

沸き上がる感動

謎解きを楽しみ宿題をもらおう

今回は、バッハの森の創立記念コンサートに「お客様」として出かけました。これまでは、クワイアの一員としてすべてのコンサートに参加してきましたが、今回は一人の聴衆です。しかも二人の幼い息子を、指揮者の比留間恵さんのお嬢さんで小学校4年の英ちゃんが面倒をみてくださるというのです。

身も心も軽くなって奏楽堂の座席に座ります。プログラムに目を落とすと、「開眼の願い」というタイ

トル。何と渋いタイトルでしょうか。お線香の臭いがただよってきそうです。家に帰ってから国語辞典で調べてみると、「かいがん」と読めば、「目の見えない人の目を見えるようにすること」、「かいげん」と読めば、「新しくつくった仏像に魂を迎え入れること。転じて、仏道の真理を悟ること」とありました。それでは「開眼の願い」とは何か。舞台への出入りや発声や音程を気にせず、さらに子どもの心配もせずに、バッハの森のコンサートを満喫できるチャンスなど滅多にありません。この恵まれた状況で、謎解きをするチャンスです。バッハの森のコンサートには、必ず謎解きをする楽しみがあります。今日のキーワードは「開眼」です。

心洗われた美しい斉唱

オープニングはオルガンによるスウェーリンクの「半音階的幻想曲」。非常に技巧的で、タイトル通

り半音階がいくつも連なり流れては現れ、こちらの心を落ち着かせてくれません。謎が一杯の混沌とした気持ちでコンサートの幕が開きました。

続く「キリエ」「クリステ」「キリエ」のオルガンとの交唱では、その斉唱の美しさに心を洗われる思いでした。バッハの森クワイアの声はこんなにも柔らかく、みずみずしいのかと聴き入りました。一人一人の声が混ざり合い溶け合って、一つの声になっていました。つい数ヶ月前まで、こんなに素敵なクワイアで歌わせていただいていたのかと、大変恵まれた環境だったことに改めて気づき感謝しました。

感謝を胸に、福音書の朗読が始まります。ルカによる福音書 18 章 31 節から 43 節まで。前半はイエスが弟子たちに彼の受難と復活を予告した場面。そのとき弟子たちはイエスが語ったことを何一つ理解できなかったと伝えます。後半は、道ばたで物乞いをしていた一人の盲人が、通りかかったイエスに目が見えるようになりたいと訴え、イエスがその願いをかなえてやったというお話です。私は、エルサレムへの道すがら、イエスの前にたたずむ一人の弟子になって自らの愚かさを恥じたり、エリコに近い道ばたで周りの制止を振り切って叫ぶ盲人を眺める群衆の一人になったりしながら、聖書の語る世界を楽しみました。

「キリエ」は開眼の願い

同時にイエスの言葉が全く理解できない、いや理解しようとしめない弟子たちと、見えるようになりたいと渾身の力で叫び、見えるようにされた盲人との対比が浮き彫りになります。これはどういうことだろうか。そう言えば、ミサ通常文の「キリエ」はギリシャ語で「主よ」という呼びかけを意味し、それはこの盲人がイエスに向かって、見えるようになりたいと懇願した、まさにこの場面からとられた式文です。ミサの最初に呼びかける「キリエ」は、「開眼の願い」なのだということが改めて分かります。

これは謎解きの序章に過ぎません。心が騒ぐ中、オルガンの伴奏に合わせて、コラール「主の苦しみと痛みと死は」を全員で斉唱します。すると涙腺が一気にゆるみます。「主の苦しみはわが喜び」と歌詞にのせたメロディーが、なぜこれほど心を打つのでしょうか。コラールそれ自体の素晴らしさとは言いようがありません。

それからプログラムはメディタツィオに進みます。カンタータ第 2 曲で、「あなたから祝福を受けなければ、私はあなたを去らせません」とイエスに向か

って語る盲人の台詞を、神との対決を辞さな気迫に満ちた族長ヤコブのエピソードを引用して説明されます。盲人にとって、目が見えるようになりたいという願いは、生きるために絶対に必要な願いであり、その思いの強さは神と対峙して祝福を強要したヤコブと同じだったというのです。翻って、私にとって生きるために絶対になくしてはならないものは何だろうか、私にとって「開眼の願い」とは何なのだろうか、という問いで頭が混乱し、「開眼」は深い霧の中でした。

生きるために必要なものは何か

オルガン伴奏付きの合唱によりカンタータの第 3 曲、第 4 曲が歌われ、いよいよコンサートは大団円となります。終曲では、第 2 曲で隠されていたコラール「キリストよ、神の小羊よ」が前面に飛び出し、一気に結論づけられます。イエスの受難の場面を想起させるような痛々しい響きが胸に突き刺さります。

結論をさらに念押しするかのようになり、オルガンがバッハの「おお、神の小羊よ、罪なく」(BWV 656) を奏でます。ミサ通常文の最後の式文である“Agnus Dei”のドイツ語訳コラールで、「キリストよ、神の小羊よ」の兄弟のような受難のコラールです。どうしてこんなに心を打つ響きなのだろうと、涙のふたが開いたままふさがりません。ただ目の前を覆っていた何かがどんどんはがれ落ちて、頭を混乱させていた凝り固まった塊が瓦解していくのを感じます。謎解きはもはや問題ではなくなり、洗い流された心と体でコンサートは幕を閉じました。「開眼の願い」は「神の小羊」で決着したのです。

「開眼」とは、他の命を生かすために消えて行く命があるという真理を理解し悟ることのようです。それでもまだ合点がいかない私は、やはり愚かな弟子に属するのでしょうか。しかし、この正体不明の沸き上がる感動にヒントがあるような気がします。

ここ二年ほどバッハの森で、私は岩渕倫子さんと一緒に、小学生のハンドベルグループを指導しています。このヒントを胸に、生きるために欠かすことができない何かを見いだすよう、子どもたちに伝えていく役割があるのではないかという思いがよぎりました。私の目はまだ開かれていません。このコンサートからいただいた大きな宿題です。(別所香苗)

1. 10, 17, 24, 31 運営委員会 参加者 5, 4, 4, 5 名。
 1. 11 春のシーズン開始
 2. 7, 21, 28 運営委員会 参加者 4, 5, 5 名。
 2. 9 中止 雪のためクワイア・ワークショップ
 1 日目を中止した。
 2. 10 クワイア・ワークショップ 参加者 12 名。
 2. 21 電話機主装置交換
 3. 7, 14 運営委員会 参加者 5, 5 名。
 3. 18 創立記念コンサート「開眼の願い」
 参加者 40 名。

J. S. バッハの音楽鑑賞シリーズ

コラール・カンタータ研究

コラールとカンタータ (JSB)

1. 12 新年祭のカンタータ「主なる神よ、あなたを私たちは誉め称えます」(BWV 16)；コラール「我に御恵み称えさせよ」。オルガン：J. S. バッハ「このようなあなたのすべての慈しみを、私たちは誉め称えます」(BWV 16/6)、安西文子。参加者 14 名。
 1. 19 第 444 回、オルガン：J. S. バッハ「私を助け、神の慈しみを誉め称えさせてください」(BWV 613)、安西文子。参加者 11 名。
 1. 26 顕現祭後第 1 主日のカンタータ「愛しまつるイエスよ、私の憧れよ」(BWV 32)；コラール「捨てよ、わが心」。オルガン：J. S. バッハ「私の神よ、私に門を開いてください」(BWV 32/6)、笠間きよ子。参加者 10 名。
 2. 2 第 445 回、オルガン：J. G. ヴァルター「大いに喜べ、おお私の魂よ」、笠間きよ子。参加者 11 名。
 2. 16 顕現祭後第 4 主日のカンタータ「イエスが眠っておられる、私は何を望んだらいいのか」(BWV 81)；コラール「主よ、喜び」。オルガン：J. S. バッハ「あなたの庇護の下に」(BWV 81/7)、金谷尚美。参加者 9 名。
 2. 23 第 446 回、オルガン：J. S. バッハ「イエスよ、私の喜びよ」(BWV 610)、金谷尚美。参加者 9 名。
 3. 2 七旬節のカンタータ「私は私の幸いで満足しています」(BWV 84)；コラール「誰か知る、終わりのいかに近きこと」。オルガン：J. S. バッハ「この間に私はあなたにあって満足して生き」(BWV 84/5)、並木聡子。参加者 9 名。
 3. 9 第 447 回、オルガン：J. S. バッハ「愛する神にのみ支配させる者は」、並木聡子。参加者 6 名。
 3. 16 第 448 回、エストミヒのカンタータ「主イエス・キリストよ、真の人にして神よ」(BWV 127)、オルガン：F. W. ツァハウ「主イエス・キリストよ、真の人にして神よ」、海東俊恵。参加者 11 名。

学習コース

- バッハの森・クワイア (混声合唱) 1. 12/10 名、
 1. 19/11 名、1. 26/11 名、2. 2/12 名、
 2. 10/12 名 (ワークショップ)、2. 16/12 名、
 2. 23/13 名、3. 2/15 名、3. 9/14 名、
 3. 16/15 名、3. 23/15 名 (ゲネプロ)。
 オルガン音楽研究会 1. 11/8 名、1. 25/6 名、
 2. 8/8 名、2. 22/8 名、3. 8/7 名。
 コラール研究会 1. 11/7 名、1. 25/4 名、2. 8/7 名、2. 22/7 名、3. 8/7 名。
 クラヴィコード・オルガン教室 1. 11/3 名、
 2. 8/2 名。
 オルガン・クラブ 1. 18/4 名、2. 1/4 名、
 2. 15/4 名、3. 1/3 名、3. 15/2 名。
 ハンドベル・クワイア 1. 19/6 名、2. 2/5 名、
 3. 2/6 名、3. 16/6 名、3. 3/6 名。
 声楽アンサンブル 1. 26/6 名、2. 3/5 名、
 3. 9/6 名。
 器楽アンサンブル 2. 16/4 名、3. 9/4 名、
 3. 16/3 名。
 読書会：聖書 1. 12/5 名、1. 19/7 名、1. 26/5 名、
 2. 2/7 名、2. 16/4 名、2. 23/5 名、
 3. 2/4 名、3. 9/5 名、3. 16/6 名。
 ハンドベル・リンガーズ (小学生のハンドベル・クラブ) 1. 20/9 名、2. 24/8 名、3. 17/15 名
 (ミニコンサート)。
 オルガン、クラヴィコード、チェンバロ練習
 1. 8/1 名、1. 10/2 名、1. 11/1 名、1. 12/2 名、
 1. 15/1 名、1. 17/2 名、1. 18/1 名、
 1. 19/2 名、1. 22/1 名、1. 23/1 名、1. 24/1 名、
 1. 25/1 名、1. 26/2 名、1. 29/1 名、
 1. 31/1 名、2. 1/2 名、2. 5/2 名、2. 7/3 名、
 2. 9/1 名、2. 10/1 名、2. 13/1 名、2. 14/1 名、
 2. 15/2 名、2. 16/2 名、2. 19/1 名、
 2. 20/1 名、2. 21/2 名、2. 22/1 名、2. 23/2 名、
 2. 26/3 名、2. 27/1 名、2. 28/1 名、
 3. 1/2 名、3. 2/1 名、3. 5/2 名、3. 6/1 名、
 3. 7/2 名、3. 8/2 名、3. 9/1 名、3. 13/2 名、
 3. 14/1 名、3. 15/1 名、3. 20/1 名、
 3. 22/2 名、3. 23/1 名、3. 27/2 名、3. 28/1 名、
 3. 29/3 名。